

子どものための哲学（Philosophy for Children P4C）公開授業指導案

1. 日 時 11月2日（月）5校時 13:50~14:35
2. 児 童 4年生（金澤学級）
3. 授業者 Philip Cam フィリップ・キャム
4. 主 題 友情について
5. 教材名 とらくんとぼく カザ敬子
6. 本時のねらい 児童が友だちであるということはどういうことかを一層深く理解する。
7. 授業の展開

学習の目標： 児童が友だちであるということはどういうことかを一層深く理解する		
ねらい：探求のスキル： 「なぜなら」を使って理由を説明する		ねらい：社会的スキル： 他の人の意見を検討する
時間配分	授業の流れ	資料等
5分	ねらい：探求のスキル： 理由を説明するのに「なぜなら」を使う	マイクと「なぜなら」カード
5分	ねらい：問い： 「友だちとは何か」ペアになって簡単に議論そして相手はどう言ったかを報告。賛成ですか反対ですか。その理由をあげて下さい。	無し
5分	授業のための刺激： カザ敬子文・絵『とらくんとぼく』	テキストのコピー
10分	議論の計画： 1. 物語の最初でとらくんはぼくに対して友だちとして振舞っただろうか。そうでないとしたら、なぜだろう？ 2. もしも、とらくんがぼくにしたようにだれかがあなたにしたら、どうする？ 3. とらくんとぼくは、二人の友情を保つために最後はどうしたろう？ 4. 友だちどうし相手に対しどういう風に振舞うべきだろう？	話し手のボール 「なぜなら」カード
15分	活 動 友だちとして振舞う：小グループと友情の基準を作るためのクラスでの議論	議論の展開のための床設定
5分	最後の反省 「親指」 理由を説明するために「なぜなら」をどれくらい上手に使いましたか？ 友だちの意見をどれくらい上手に検討しましたか？	無し

## 8. 活動カード

友だちとして振舞う

?

友だちとして振舞わない

はるとは叱られたくないので、ゆうきに先生に嘘をつくように頼んだ。もし、ゆうきが先生に本当のことを言えば、それは友だちらしい振舞いだろうか？

あまりにたくさんのスナック菓子を食べるのはひなたにとってよくないと考えたみおは、ひなたにそう伝えた。みおは友だちとして振舞っただろうか？

そうたは仲良しのこうきをおこらせた。なぜなら、そうたはこうきを自分のスポーツチームの一員に選ばなかったから。そうたは友だちとして振舞っただろうか？

ゆいはるいに自分の色鉛筆を使わせようとしなかった。なぜなら、そもそもるいは自分の色鉛筆を持ってくるべきだったから。ゆいは友だちとして振舞っただろうか？

昨日、そらは仲間のゆうまにハンドルを持たないで自転車に乗って通りを走るようけしかけた。そらの行動は友だちらしいだろうか？

りんは自分はあかりの友だちだと言っているけど、あかりに宿題を写させなかった。りんの振る舞いは友だちらしいだろうか？

さきがしつこくからかい続けたのでゆみはムツとした。その時、さきは笑って「ささいなことでもいららしてばかねえ。」とゆみに言った。さきは友だちとして振舞っただろうか？

### ○こどものための哲学

コロンビア大学教授マシュー・リップマン Matthew Lipman によって「philosophy for children (p4c) (こどものための哲学)」として1970年代に提案される。

アメリカをはじめ、ヨーロッパや中南米、アジア、オーストラリアなど世界各国で、対話型の教育、教科的横断的な学習法や市民教育の一環として実践されている。

### ○各国での取り組み

こどもとおとなが対話を通して考える試みは、国や文化によって取り組みはさまざまです。

アメリカ「こどものための哲学」philosophy for children (p4c)

イギリス「こどもとともに哲学を探究する」philosophical inquiry with children

オーストラリア ビューランド小学校

1年から6年までのすべての学級が週に1時間「哲学」を学ぶ 20人に2人の教員  
大学研究者と一緒に教材を開発する 小学校教員組合で研修を実施

オーストラリアのビューランダ小学校のカリキュラム。

1・2・3年生、準備学級で話し合われるテーマや概念（ビューランダ小学校の例）		
自己、自分		アイデンティティ、わたしはだれか？
所属「わたしは・・・の一員です」		家族
仲間、近所の人、集団、地域		文化
人を思いやること		自分や他人を尊重すること
同じことと違うこと		責任
善いことと違うこと		持続可能性（環境に関すること）
4・5・6年生、中学生		
自分	善悪、倫理	アイデンティティ、私は誰？ 美しいってどんなこと？
文化	変わること	からだ 働くということ
尊重、尊敬すること	歴史	人を思いやること
時間について	責任	違い
価値	何のために？（目的）	協力すること
知るってどういうこと？	勇気	（知識）

考えるスキル（技）の例			
準備学級	・聞く/理由を言う/問う/述べる	4年生	・べつの可能性を考える
1年生	・例をあげる ・他人の意見について考える ・振り返る		・区別する ・アナロジー（類推） ・類推と相違
2年生	・問いをまとめる ・何、なぜを問う ・はい/いいえを問う ・説明する	5年生	・前提を探す ・誤った推論を見つける ・アナロジーを検証する ・関連づける
3年生	・違ったみかたをする ・基準をあげる ・定義する ・判例をあげる	6年生	・仮説を立てる ・議論の進み方を評価する ・推論する

### ○Philip Cam フィリップ・キャムの紹介

・Cam氏は、オーストラリアのシドニーにある University of New South Wales の Adjunct Associate Professor (非常勤の助教授。定年後の職) であり、オックスフォード大学で博士号を取得しています。

子どものための哲学(p4C)の世界的指導者で、現在は Philosophy in Schools Association of New South Wales の会長であり、Thinking Together, Teaching Ethics in School という著書、P4C用の教材も出版しており、倫理と教育の問題についての研究者・実践家でもあります。

・参考：Cam氏の登場する動画 [http://youtu.be/tk\\_B32HtnWg](http://youtu.be/tk_B32HtnWg)

Cam氏の著作 [http://www.acer.edu.au/documents/PhilipCamFlyer\\_web.pdf](http://www.acer.edu.au/documents/PhilipCamFlyer_web.pdf)

Cam氏のHP <http://www.facebook.com/DrPhilsPhilosophyPage>

彼の著作、Thinking Together が「共に考える 小学校の授業のための哲学的探求」萌書房 梶形公也 監訳 井谷信彦・高井弘弥・中川雅道・宮澤是 訳が出版されました。また、Teaching Ethics in School の翻訳が進行中です。

## ○オーストラリアにおける「子どものための哲学」(Philosophy for Children: P4C)

今日の子どもたちは批判的・反省的に自分たちの生活について思考することが重要であるという認識の下に、オーストラリアでは初等・中等教育において哲学を教育するためのカリキュラム開発等がなされている。

オーストラリアには各州に「子どものための哲学」という名称をもった学会が存在し、全国レベルではその連合体 (The Federation of Australian Philosophy for Children Associations、略称 FAPCA) が存在している (FAPCA はオーストラリアだけでなくニュージーランドをも含む)。その活動の概要には次のように書かれている。「Philosophy for Children(P4C)は授業全体の中で哲学的問題に児童・生徒を巻き込むというプログラムである。多くの「大問題」へと児童・生徒を導き、その探求を可能とすることによって、彼らの思考力を改善することを目的としている。このプログラムを用いて、教師は、児童・生徒が彼らの学校活動の背後にあるさまざまな観念について授業の中で共に探求することによって、もっと深く考えるようにさせる。子どもたちはこうして反省的な仕方自分自身の思考に焦点をあてていく。・・・P4C は子どもたちがコミュニティの中で知識や推論の能力を構成するという考えに基づいている。教師の役割は子どもが飲み込む知識を供給するというものではなく経験を積んだ思想家のモデルを教室にいる思考の初心者に提供するというものであり、高い思考水準を保持するというものである」。

FAPCA は、例年大会を開催している。大会には専門家が参加するだけでなく、児童・生徒、保護者の出席もある。研究者によるモデル授業も行われている。P4C 認定証も発行。

1998 年「ハーバーマスとクラスルーム」「ケアと議論の力」

99 年「思考と子ども」

2000 年「カリキュラム横断的な哲学」というテーマで大会を開いている。

P4C は特にクィンズランド州が熱心である。クィンズランドでは Queensland Network for Philosophy in Schools が 1997 年に成立している。

学校現場での哲学教育ではクィンズランド州の Buranda State School が有名である。その「子どものための哲学の方針」の目次を紹介する。

Profile/Rationale/Goals/Objectives/The Program (Essential Learning Areas/ Attitudes and Values/ Skills/What makes a discussion philosophical?/ Some examples of philosophical questions/ Support materials for Buranda classrooms)/ Student Assessment・Report for Parents/School-wide evaluation/

P4C では、子どもに哲学の教育をする際に、共同で行うことを重視している。「共に探求する集団」(A 'Community of Inquiry') 「共に探求する集団」は、児童・生徒が自由に自分の見解を表現できるよう非常に構造化された安全な集団である。